



ウィズ・コロナ見据え新規事業

小野写真館 河津の高級旅館買収

「祝い事」プロデュース

ブライダルやフォトスタジオ事業の小野写真館(本社茨城県、小野哲人社長)は河津町見高の高級旅館を取得し、ウィズ・コロナを見据えた新規事業を展開している。蓄積した軸事業のノウハウを生かして異業種の宿泊業に参入し、相乗効果を高める試み。「祝い事」をテーマに、全室貸し切りのプロデュースに取り組む。

年比4割減だったことや、以前から写真を中心に据えた上で「密」にならない新規事業を模索していた。同社が主軸事業の業務転換を図りつつ、新たな収益源を生む事業として着手した成長戦略の第一弾。根底に写真文化の裾野拡大があるという。

人が2泊3日の日程で滞在し、神前式を挙げながら会食、新郎新婦は河津川沿いの河津桜の前でウエディング撮影を行った。カメラマンが3日間、密着撮影してアルバムを制作した。

同社によると、5月にも2組目の挙式を行う。9月、10月にも各1組を予定する。祝い事は3月の1件を皮切りに4月2件、5月3件とわずかながらも着実に増えている。コ

同社は昨年10月、事業承継M&Aで「桐のかほり咲楽(さくら)」を買収して運営を始めた。同旅館は全4室、一日4組限定。全室に専用露天風呂があり、客室は和の風情と洋の機能美にあふれている。

祝い事はブライダル、還暦、結婚式、金婚式、七五三、成人式などの祝い事に関係者が全室貸し切りで、宿泊して展開する少人数プラン。同社の専属プロカメラマンが宿泊期間中は旅館内外で記念撮影する他、メイクのスタッフも随行する。2月にブライダルで第1号を初開催した。新郎新婦を含め親族10

新規事業の「ウィズ・コロナの新しい祝いのカたち」は2月から開始した。コロナ禍の影響を受けて昨年4、7月に予定していた挙式の大半が中止になり、主軸のブライダル事業の年間売上高が前

コロナ禍により新婚旅行や家族旅行に代えての利用が目立つという。同社はこれら、旅館買収に合わせて2月からロケーション撮影専門の部門「アンシャンテ伊豆」を立ち上げた。小野社長は「2月の挙式は宿泊することで通常と違い、ゆったりとした時間軸の中で過ごすことができることが分かり、自信を深めた。コロナ禍になって地方の可能性をさらに感じる。撮影に宿泊を加えた強みを今後も生かしたい」と語った。



小野写真館が高級旅館を取得し2月に行った「祝いのカたち」ブライダルプラン第1号=河津町見高(提供写真)

桐のかほり

咲楽